

タイトル:平成 28(2016)年度 教育セミナー(第 12 回)

日時:2016 年 9 月 18 日(日)~21 日(水)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「19 世紀末 20 世紀初頭イスタンブル都市社会の変容— オスマン演劇ポスターを読み解く」

江川 ひかり (明治大学)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所には、19 世紀末・20 世紀初頭にイスタンブルで上演された近代演劇のポスター・プログラム 170 点が所蔵されている。これは、1839 年からトルコ共和国成立までにイスタンブルで上演された作品の約 8.5%にすぎないが、世界的にも類をみないコレクションである。

ポスターには、①上演地区・劇場、②劇団、③監督・演出家、④(年)月日、⑤上演回数(初演か何回目か)、⑥主演目、⑦劇構成、⑧原作者・翻案者、⑨配役、⑩あらすじ・場面紹介、⑪主演目以外の諸演目、⑫座席料、⑬広告、⑭印刷所名が記され、⑮印紙が貼られている。上演年代は 1881 年から 1923 年までにおよび、①②④⑥⑦はほぼすべてに見られる要素である。

トルコの近代演劇は、大衆演劇「トルコもの」と西洋演劇「西洋もの」とに大別される。大衆演劇とは、<sup>カラギョズ</sup>影絵芝居と男優が演じるオルタオユヌとが融合して 1875 年に誕生した。西洋演劇とは、いわゆる西洋文学の翻案やオスマン史を「西洋もの」的に脚色した作品を指す。ただし両者は明確に区別できず、渾然一体となって発展した。

夜の公演は、<sup>ソアレ</sup>明かりを灯すガス・電力の普及と<sup>トランヴァイ</sup>路面電車や渡し船などの交通革命とによって可能となった。断食月には、<sup>イフターール</sup>断食明けの食事後に演劇が上演される慣習が定着していった。このように都市社会の変容と近代演劇の発展とは密接な関係にあった。

ポスターに広告が登場するのは 1903 年である。なかでも舶来品の衣類や靴、ミシンなどの広告の大部分が掲載された「西洋もの」のプログラムは 1910 年に集中しており、アブデュルハミト二世退位直後の自由な経済活動とグローバルな消費主義の拡大を物語る。またポスターにはヒジュラ暦や財務暦の他に、フランス語やアルメニア文字・キリル文字によるグレゴリオ暦・ユリウス暦、ヘブライ文字によるユダヤ暦も示され、国際都市イスタンブルを浮き彫りにする。

大衆演劇も西洋演劇も、主演目に付随して歌や舞踊、さらには一幕の喜劇など複数の番組から成る寄席演芸形式を採用していった。世紀末には番組の一つにシネマトグラフが登場した。第一次世界大戦を経て著しいインフレに見舞われたイスタンブルでは座席料もはねあがり、劇場は次第に映画館へと替わられていく。

とはいえ、現代においても<sup>カラギョズ</sup>影絵芝居は、断食月の夜に上演されたり、断食月を象徴するキャラクターとして広告に使用されている。新市街では、オルタオユヌ劇団が自らの劇場で興行をおこなっている。このようにトルコの近代演劇は、実は今も継承されており、世界演劇史に位置づける意義がある。紙きれ一枚のポスターも、解読し、その声を聞き、現地を歩くことによって、時空間を超えた貴重な史料となるのである。